

令和7年度 第3回 三ヶ日中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年11月21日（金） 14時30分から16時30分まで
- 2 場所 三ヶ日中学校 会議室
- 3 出席委員 高橋一浩、御園崇、渥美浩明、外山昭博、岡本和久、長坂恭輔、寺田祐真、清水久美子、清水巨久、鈴木あゆみ
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 井口敏浩（三ヶ日支所）
- 6 学校 金子直由（校長）、宮津宗之（教頭）、坂田真之介（教務主任）、西田光男（CSディレクター）
- 7 教育委員会 学校・地域連携課 山本俊行指導主事
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 西田光男

10 議長の選出について

司会の宮津教頭から、議長の選出について意見を求めたところ、委員よりこれまで同様に高橋会長を議長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- （1）「総合的な学習の時間」の充実に向けて
- （2）いじめを含めた生徒対応の現状と今後の課題
- （3）「休日部活動の地域展開（移行）」に向けて
- （4）次期協議会メンバーの入れ替えについて

12 会議記録

司会の宮津教頭から委員総数10人全員の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）「総合的な学習の時間」の充実に向けて

議長の指示により、「総合的な学習の時間」の様子について教頭より説明があり、委員に意見を求めたところ、以下のような発言があった。

- ・生徒の「学びのニーズ」に対応するための地域のサポート体制をどうすればよいか、なかなかすぐには答えられないが、運営上の問題点として、学校の授業に合わせて平日にアドバイザーの皆さんに集まっていただくというのは難しいことだと思われる。

（清水巨久委員）

- ・12月10日の「探究学習発表会」を見てみないと生徒の求めている内容や課題、進度などが分からない。個人として課題追究が順調に進んでいるのかどうかということも知りたい。（寺田委員）

◇学年の初めから課題設定をしてきたが、そこに時間がかかる。(教頭)

- ・「何をやっていいのか分からない」からスタートして、課題を見つけるのは難しいことだと思う。(寺田委員)
- ・発表が多岐にわたるので、その情報を地域に発信して伝えないと今までの人数では対応しきれないと思う。「三ヶ日のために」と考えている人はたくさんいるので、そういう方々にも伝わるのが大切だと思われる。限定された時間に三ヶ日中に来ないと、学習内容(発表内容)が分からないということ避けるためにも必要。その発信までも含めて生徒に取り組ませることが学習と、とらえればよいのではないか。生徒が「発信する→受け取る」という経験をすることでよりよい成長につながる。(岡本委員)
- ・個々の発表になったことは町民には伝わっていないから、地域へ発信するのはよいと思う。地元で活動する自分を想像して課題を追究していくことは、将来、地元に戻ってくるというきっかけにもなるかもしれない。(清水久美子委員)
- ・生徒たちは、情報をどのような方法で収集しているのか。(渥美委員)

◇インターネット検索や書籍、学校や家でのインタビューが主である。地域の方へのインタビューもできるだけ行いたいのだが、時間的制約や安全面への配慮を考えると頻繁には行えない。(教頭)

- ・地域の方々の生の声を聞いて、直接話ができるのはよいことだと思う。(渥美委員)
- ・静岡県には、一般社団法人の「シツクリ」という組織がある。民間企業と学生をつないで地域の活性化を目指している団体で、総合的な学習へのサポートもしているようだ。利用も可能かもしれない。中学生の興味・関心に対応するシツクリと同様な人材バンクのようなシステムがあるとよい。(長坂委員)

◇そのような関わりがオンラインでできるとよい。(教頭)

- ・目的や課題追究の方法が定まっている子ばかりではないので、そのようなシステムがあると助けになる。(岡本委員)
- ・手探りで進めていくよりも、選択肢がある方がよい生徒もいる。(高橋委員)
- ・選択肢があると、確かにより分かり易くなる。情報収集の段階だけでなく、その後も生徒同士で交流し、情報共有することはあるのか。(御園委員)

◇友達と情報を共有し、共に学習を進めていくのはキャリア教育の一つの在り方でもある。

(教頭)

- ・総合的な学習の話を家庭ですることはあまりないが、「地産地消」について、調べていたようだ。友達の学習の進め方を参考にして、学習を深めていけたらよい。(鈴木委員)

(2) いじめを含めた生徒対応の現状と今後の課題

議長の指示により、生徒の現状と課題について、教頭より説明があった。委員に意見を求めたところ、以下のような発言があった。

- ・相談したいのにできないという生徒たちもいるのではないか。そのための環境づくりはどうか。(高橋委員)

◇昼休みに外で遊ぶ時間を設けたら、生き生きと過ごしていた。他人や集団との関わりに問題を抱える生徒には、そのような関わるの機会を設けることが大切だと改めて感じた。(教頭)

- ・三ヶ日青年の家を利用する小中学校の生徒さんたちの様子を見ると、話を聞く態度一つとっても、学校ごとに大きな違いがあり、教員の皆さんが指導を工夫されていることが窺える。また、保護者対応に苦慮しているということも、その言動から垣間見える。(御園委員)
- ・防災訓練に中学生が参加して活動すれば、年配の方々と交流し、つながっていくことができる。また、防災訓練に参加すれば、判断力を高めることにもなり、よいことだと思う。(清水久美子委員)
- ・1月18日の「地域防災訓練」には中学生の参加をお願いしてある。救命救急訓練などを一緒に行うのもよいと思う。災害対応のための組織は作ってあるが、実際に災害が起こった時に、その組織がうまく機能するか分からない。実際には、近所の人たちとの「共助」が重要になってくると思われる。(外山委員)
- ・地域のお祭りも減ってきて、学校以外の行事が少なくなって来ている。地域のイベントへの参加を学校からも呼び掛けてほしい。(寺田委員)
- ・今まで出てきたような地域の行事などで出会ったときの「挨拶」は交流の第一歩であり、基本である。問題行動を防ぐためにも、そこはとても大切なこと。(岡本委員)

◇承認欲求が満たされない生徒たちへのサポートとしても、親や教員以外の大人たちとの関わりが大切になってくる。今後も関わりをお願いしたい。(教頭)

(3)「休日部活動の地域展開(移行)」に向けて

議長の指示により、部活動の地域展開についての説明があり、意見を求めたところ、委員より以下の発言があった。

- ・11月28日に説明会が行われるようだが、その内容について知りたい。(渥美委員)

◇おそらく、地域展開の現状の説明と、休日部活動の行うための様々な質問への対応が中心になると思われる。(校長)

- ・部活動のとらえ方は、我々の時代とは隔世の感がある。それでも、部活動は心身を鍛え成長する場であってほしい。(高橋委員)
- ・「はまクル」では、クラブの「申請・登録の準備→申請→登録」が済んだら、生徒がクラブを選択し申し込むという流れになるのか。(御園委員)

◇「はまクル」には、おそらくポータルサイトができると思われる。在籍中学校に希望部活がない場合は、使用することになる。(教頭)

- ・浜松市は「すべての中学生が安心して、スポーツや文化芸術活動を続けていける環境を目指す」としているが、そのためのクラブをどのようにして作るのかは地域任せであり、市からは何のアドバイスも補助もない。遠方のクラブへの移動がままならないという地域への対応もない。組織(クラブ)が立ち上げられなかった場合、どうするのか分からない。(外山委員)

- ・保護者が地域クラブの代表になるのはどうなのか。（御園委員）
- ・「地域の人たちで運営する」となっているのに、代表がその時の保護者から選ばれるというのは、筋が通らないと思う。（外山委員）
- ・指導者の身分保障はどうなっているのか。（渥美委員）

◇給与や休暇は保証される。（校長）

- ・生徒数が多く、クラブへの移動に距離的に問題がない市の中心地域では、さして問題になっていないようだ。周辺地域の声はなかなか届かない。（岡本委員）

（４）次期協議会メンバーの入れ替えについて

議長の指示により、協議会メンバーの入れ替えについて、教頭より説明があった。委員に意見を求めたところ、任期を終える委員がそれぞれの後任候補者を考えており、次回会議にて報告できるとのことであった。

司会から、次回会議は、2026年2月4日（水）午後2時30分より三ヶ日中会議室にて開催する旨の連絡があった。